

平成 26 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座・准教授
氏名 Name	中川 裕之
専門分野 Academic Field	ドイツ語学／言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	多言語国家スイスのレト・ロマン語をめぐる言語アイデンティティの研究
研究成果： 言語マジョリティが言語マイノリティの、または言語マイノリティが自らの言語アイデンティティを軽んじた結果、言語それ自体が失われることになれば、消滅するのは言語だけにとどまらず、言語を軸として多様に展開されてきた社会・文化全体の衰退と消滅につながるのではなかろうか。この仮説を本年度の研究の出発点として設定し、スイスにおいてドイツ語と併存しながらこれまで消滅を免れているレト・ロマン語との複言語地域出身者による著作に注目し、とりわけ言語と社会・文化の関わりについて詳細に論じられたテキストと談話の分析と翻訳を実施した。その概要は、人間集団の多様性は言語・社会・文化として表出するものの、各言語話者にとって唯一無二の言語アイデンティティもまたその多様性を支える重要な構成要素の一つであると見なして尊重すべきであろうとの結論に達している。本研究は、当該の対象地域で言語社会調査研究を積み重ねることによって、多様性を保持しつつ促進するために本質的に必要なものは何であるのかを明らかにしながら、それと関連する普遍的特性の抽出と解明に貢献する成果になっているものと考えられる。 上記研究を具体的に遂行するために、平成 26 年度研究推進経費による研究成果刊行助成に応募し、同年 11 月 13 日開催の研究企画推進委員会にて承認・採択されたことを受けて、昨年に引き続き、言語社会専攻ドイツ語部会のドイツ語学／言語学系教員 2 名と、言語文化専攻ドイツ語部会の社会言語学系教員 1 名の計 3 名による共同研究を推進し統括した。その研究成果は『言語社会共同研究プロジェクト 2014 ドイツ語をめぐる言語社会研究 2』として平成 27 年 3 月 28 日に刊行された。本報告書は三部構成であり、第一部は、上記を主たる内容とするドイツ語圏の複言語社会における言語文化状況についての翻訳（担当：中川裕之）であり、これはコーパス言語学におけるパラレル・コーパスの構築ともつながる成果になっている。第二部は、1 人称主語の未来時制に関するドイツ語学の論文（担当：黒谷茂宏）であり、第三部は、ルクセンブルクの初等教育における識字教育を扱う社会言語学の研究ノート（担当：小川敦）である。これらはいずれも、ドイツとその近隣における言語・文化および社会に関する、多様で多面的なアプローチに基づく、重要で既存の枠組みにとらわれない研究成果であり、本学における専攻と言語横断的な研究協力への新展開として位置づけることができる。	